

## 佛乗寺檀信徒の皆さまへ

日蓮正宗 佛乗寺 住職 笠原建道

### 『南条殿御返事』

かゝる不思議なる法華經の行者の住処なれば、いかでか靈山淨土に劣るべき。法妙なるが故に人貴し、人貴きが故に所尊しと申すは是なり。(乃至)此の砌に望まん輩は無始の罪障忽ちに消滅し、三業の悪転じて三徳を成ぜん。彼の中天竺の無熱池に臨みし惱者が、心中の熱気を除愈して充滿其願如清涼池とうそぶきしも、彼此異なりといへども、其の意は争でか替はるべき。彼の月氏の靈鷲山は本朝此の身延の嶺なり。(御書 一五六九頁)

気象庁の観測史上例がない、といわれるような台風が私たちの住む国土に襲いかかり、多くの被害が出ております。台風被害が比較的少ないとされていた北海道や東北地方に大きな傷跡を残したことに、「依報(仏法で説く環境世界を表す言葉)」が変化していると感じます。この場合、変化と言うよりも悪化というべきかも知れません。

被災された方々、特に、大震災の復旧も半ばでこの度の被災には、言葉もありません。心よりお悔やみとお見舞いを申し上げますとともに、一刻も早い復旧を御本尊様に御祈念申し上げますばかりです。

今月の御文は、宗祖大聖人様が南条時光殿に与えたもので、登山参詣の功德を述べられたものです。御意を意識しますと、おおよそ次のようなものです。

「このように不思議な法華經の行者の住処であれば靈山淨土という仏の住まれる最高の地に劣ることはない。説く法は貴い南無妙法蓮華經であり、その教えを説き顯す日蓮も貴い立場である。ゆえに、貴い法と貴い日蓮が住む所が尊い、と申すのである。(中略)この尊い所に足を運ぶ者には、遠い過去世からの罪障がたちまちに消滅し、身と口と心の三業からおこる悪も、真理を顯す仏の身・智慧を顯す仏の身・迷いを超越した仏の身の三徳に変わり成仏することができる。このことは、心に灼熱の苦悩を抱えた者が、インドにある無熱池に行き、『灼熱の苦悩を取り除くことが叶った。清く涼やかな池に入った如くである』と言ったが、インドの無熱池とこの地の違いはあれども、その意味するところには違いはない。インドにある仏の住む靈鷲山は、日本の日蓮が住しているこの身延の地である」

この御文については、昨年の向陽八月号でも書きましたから、ご記憶のことと思います。ここで留意しなければならないことは、「身延の嶺」は現在は「富士大石寺」であることです。

何故ならば、大聖人様が御入滅になった直後、身延の地頭・波木井実長が数々の謗法を犯しました。大聖人様の教えを曲げてしまう謗法に対し、本門戒壇の大御本尊様は勿論のこと、身延山久遠寺を始めとするすべてを大聖人様から譲られた日興上人は、そのお立場から、波木井実長の行いを諫め、幾度となく指導をされました。しかし残念なことに、波木井実長は謗法を改めるどころか、「私が正しい」とまでいう始末でした。日興上人は「地頭が謗法を犯したら身延に日蓮の魂が止まることはない」との大聖人様の御言葉を拝しておりました。また、「富士山に本門戒壇を建立しなさい」との御遺命もありましたので、身延の地を去って富士大石寺を建立されたからです。

身延を離れた日興上人を、自らの領地である富士上野にお招きし、総本山大石寺を建立寄進したのが南条時光殿です。

法(三大秘法)が貴いこと、その法を明らかにされた日蓮大聖人様が仏様であること、法と人が貴いから身延の地も尊い、と記された当抄を賜ったその人が、身延と絶縁して富士大石寺を建立寄進したことが、実に不思議な現証なのです。

この富士大石寺に、台風が押し寄せる中を、今年も世界各地から大勢の法華講衆が集い、夏期研修会が盛大に開催されました。

大白法によれば、海外からのご信徒は、八月十九日の金曜日に総本山に着き、二十二日の月曜日にそれぞれの国へ帰られたようです。その間、御開扉や丑寅勤行はもちろん、唱題会や塔婆供養などに足を運び、充実した総本山の三泊四日であったことが窺われます。

ところが、帰国する予定の二十二日の月曜日は、台風九号の影響で羽田・成田空港ともに長時間にわたり閉鎖され、多くの欠航便が出ました。この影響は帰国する法華講衆にもおよび、総本山でもう一泊することになった国もありました。

それらの方々は、二十二日も御開扉を賜り、二十三日早朝の丑寅勤行に、御法主日如上人のお供をしたそうです。そして、「台風のお陰で、思いがけず、予期せぬ功德を積むことができました」と仰っていたそうです。この言葉に、海外で日蓮正宗富士大石寺の教えを弘めるために精進を重ねている法華講衆の信仰の確信を見る思いがいたします。

海外の法華講衆が、言葉や文字ではなく、総本山大石寺が、「罪障消滅が叶い、悪業が三徳に変わり、成仏の功德を受けられる」唯一の所である、との信仰体験を持っているなによりの証しです。ですから、台風で飛行機が欠航になったことを、「功德を積むことができた」と確信をもって言うことができるのです。

私たち佛乗寺法華講衆も、海外の信徒に負けないように、九月四日に支部総登山を挙げて行いました。暑さの厳しい時節にもかかわらず、皆様が元気に登山参詣をすることができましたことを、喜び合いたいと思います。

今回の登山で特筆すべきことは、四半世紀を隔てて御開扉を受けたNさんのことです。(Nさんの『脱会・登山』のお話は五頁に掲載しております)

Nさんは二十五年振りの総本山の感想を、「総本山が綺麗だった」・「徳を積めた」等々話してくださいました。「総本山が綺麗だった」と感じられたのは、Nさんのお心が綺麗であることはもちろんですが、創価学会に所属している時に「本山は野犬がウロウロして、桜の木は皆切り倒し」というような根も葉もないことを聞かされていたからです。ところが、二十五年前よりも塔中坊は新築整備されて統一感が生まれ、特に御影堂は三〇〇年前の建立当時そのままの偉容ですから、「綺麗だった」と仰るのは至極当然のことであるといえます。

またそれだけ創価学会の幹部の罪は深いものがあります。真実を歪めて純真な会員を洗脳しているのです。御書に照らし合わせれば、総本山から足を遠のさせるように仕向ける者たちが来世で受ける苦は「無間地獄」です。

さらにNさんが「徳を積めた」と感じられるのも、素直な信心であることを表しております。二十五年は、長い停滞であった、と思うかも知れませんが、三世の生命から思えば一瞬です。この度の御登山を、日蓮大聖人様がお喜びになり、御嘉賞下さっていることは間違いありません。来世に向かって新たな一歩を踏み出したNさんとご一緒できたことは、佛乗寺法華講衆全員の「徳」となったこともあわせて申し上げておきたいと思います。

たくさんの創価学会員が、一部の職業幹部に誑かされて、迷いの中にあります。私たちの使命の一つに、そのような創価学会員に、本来の信仰である、日蓮正宗の信仰に帰る手助けをすることです。諦めず、御開扉を受けて実感した功德のこと、清浄な総本山のことを語ってまいりましょう。

ようやく夏の暑さも峠を越え、朝夕は涼しくなってきましたが、暑さ寒さも彼岸まで、といわれる、お彼岸がまもなくです。皆様の周りに、御先祖の供養やお墓まいりに励まれる方がいらっしやると思います。その方々に、正しい追善供養の方法、御先祖が悦んでくださるお墓まいりの方法を教えて差し上げようではありませんか。涼しくなった、と油断することなくともに精進を重ねましょう。実りの秋を確信して。

以上

## 向陽歌壇

姫柚を猊下お手植佛乗寺  
実の歳毎に増して栄えん

梅雨晴間仏の道はかずあれど  
正宗一途の道を歩まん

### 『平成二八年九月四日 佛乗寺支部総登山感想』

登山は何度させて頂いてもすがすがしい気持ちになり、本当に感謝しています。

登山は七、八年振りに参加させて頂きました。奉安堂での御目通りができ、とても感激しました。これからもお題目に励み次回の登山を楽しみに頑張っていきます。

「信心の根本は毎日の勤行にある。いかに真剣にやっているかに、かかっている。」との指導が、頭(耳)に残りました。朝やったりやらなかったりの、日々の信心を、再確認して、そこからやり直そうと思います。

私にとってまだ三回目の登山でしたが、緊張する事もなくリラックスして過ごす事が出来ました。いつも勤行を行う時に私の心に浮かぶ大石寺の風景を眺めてからの御開扉は荘厳であり、格別な思いでした。久しぶりにお会いするご住職様と共に行う唱題も大変気持ち良く、改めてお山に行けた幸せを感じています。また、この度の登山で素敵な方との新しい出会いがあった事にも感謝しております。

## 『最後の結末』

わたしは元創価学会員です。

もし公明党が安保法案に賛成していなければわたしはまだ学会員だったかもしれませぬ。選挙にそなえ安保の事を学ぼうとただそれだけの理由でネット検索したのがきっかけです。

様々な情報が飛び交う中、ある日知ってはいけない事を知ってしまいました。学会の本尊は偽物だと言う事を。

「うそやろ、そんなあほな・・・」

これが私のその時の正直な気持ちです。

いくら調べても納得のいく結果は出てきません。出てくるのはニセ本尊に祈って不幸になっている事実のみです。

以前、学会の信心をされている取引先の方が尊敬する婦人部の活動家の方が交通事故に遭われて亡くなった話をされた事を思い出しました。とても頑張っていて活動していたのにおかしい。どう理解したらいい？と聞かれました。

それしか宿命転換する方法がなかったのだと。きっとすぐに生まれ変わるから大丈夫だと話しました。本当にそうでしょうか？祈って不幸になるなんておかしいですね。

それでもしばらくは普通に勤行していましたが、だんだん気持ちが入らなくなってきました。とうとう仏壇を開けれなくなり東に向いて勤行するようになりました。そんな折、佛乗寺のHPを知りご住職様に色々ご指導頂きながら、晴れて五月二八日勸誡式を受けることが出来ました。物事の最後の最後にどう解決されていくかが問題だと思います。

家のご本尊様からお寺のご本尊様。そして本門戒壇の大御本尊様へとつながってこそ、祈りは最高の結果が出るのだと思います。今回支部登山に参加させて頂き二五年ぶりに大御本尊様にお逢いする事が出来ました。

御開扉で光り輝く大御本尊様は優しく「お帰り」と迎えて下さいました。